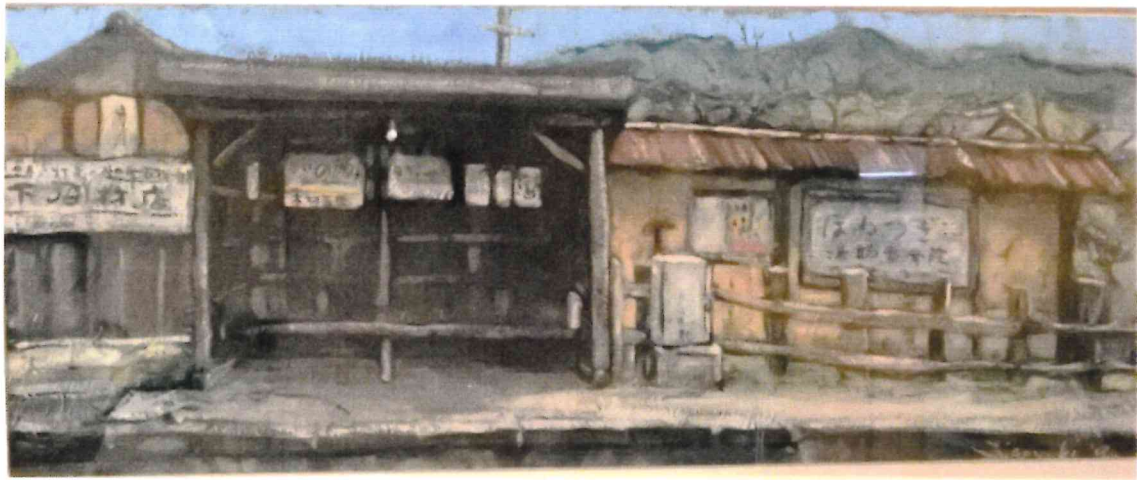


広報きみの 7月号 歴史と文化 その百七十九「一枚の絵から」



中央公民館の館長室に一枚の絵があります。油絵かと思い近づいてみると、パステルに似たグワッシュで描かれています。グワッシュは、不透明な水彩絵の具の一種で、乾燥が早く重ね塗りも可能です。下地は、なんと和紙が使われていました。グワッシュは白色絵の具を混ぜてつくります。そのため、透明感に欠けますが乾くと明るい色調となり、独特の色合いが楽しめます。

大きさは縦 38cm 横 92cm と横長です。絵の中央には駅名を示す「きののかみ」の文字、左側の民家の土塀には「石材店」、駅舎右側のトタン屋根の下には「整骨院」の看板が見えます。在りし日の「紀伊野上駅」です。

野鉄は単線のため、列車交換が2駅で行われていました。重根（しこね）駅と紀伊野上駅です。この絵は、紀伊野上駅の南側にあった駅舎風景で、ホームには誰もいません。トタン屋根からは柿の枝がのぞいていますが、葉は一枚もなく季節は冬でしょうか。

絵の右下には「Sigeyuki '94」のサインがあります。1994年（平成6年）に描かれたとすると3月の廃線直前か、それとも廃線後でしょうか。私は冬の駅の寂しさよりも、野鉄に対する熱い想いを感じました。「Sigeyuki」とは誰でしょう。調べると寺中重行氏という画家だとわかり、電話で話を聞くことができました。生まれは野上町の動木だそうです。絵は、野上町に寄贈され「野上を訪れた若山牧水」という冊子にも写真が掲載されています。

今も、野鉄に関する問い合わせは多くあります。廃線から28年。線路跡は車道に代わり、駅舎の位置もわかりづらくなりました。健康ロードを歩きながら、駅舎跡を探すと新しい発見があるかもしれません。

公民館長室から展示場所を変更しています。

寺中重行氏「冬の駅」1994年作

（令和4年6月25日）